

## 第2部 基本計画

## 1. ツーリズム振興の考え方

## 文化財、歴史・文化資源を「心の拠り所」として、町内の力を結集

広く本町の文化財の魅力を知らしめ、町内外の人々に文化財を通じて交流してもらうこと=文化財ツーリズムを確立し推進していくためには、本町のいろいろな力を結集させることが大切です。行政はもちろん、各種団体、そして個人、「オール菊陽」で町内を盛り上げることを目指します。本計画では文化財、歴史・文化資源とは、私達のふるさとを形作った先人たちの功績・営みの足跡そのもの、という視点に立ち、自分たちが共有する「たからもの」として町民の皆さん一人ひとりに愛着を感じてもらうことを第一に考えます。そして、文化財、歴史・文化資源の存在を通じて、本町で暮らすことの誇り、心の拠り所と感じてもらうことで、立場を越えた力の結集に結びつけます。

人々の「心の拠り所」として気持ち・力を一つに合わせることは、本町の文化財、歴史・文化資源の保護、利活用の具体的な活動を生み出すこと、ツーリズム確立・推進力を直接高めることに直結します。また「みんなに愛されている」という空気感・機運が町内で高まることで、文化財の「ブランド力」を高めることにもなります。

本計画では、文化財の利活用方法、情報発信の方法等を定めることはもちろん、町民の皆さんとの関係づくり、体制整備などの総合的な視点から推進力を高め、可能な限り多くの町民の皆さんと協働しながらの文化財、歴史・文化資源のブラッシュアップ、ツーリズム促進を推進していきます。

1 みんなで文化財を磨き上げ、心の拠り所に

2 町内の力を結集させ、さらに文化財の価値を高める

3 光を広く町内外に波及させていく

4 外部からの評価でさらに文化財の価値アップへ

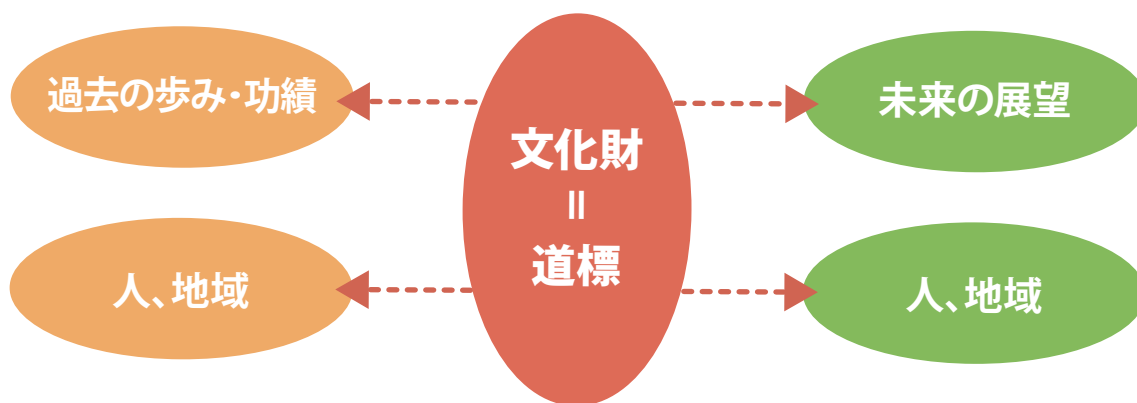
## 2. ツーリズム振興の基本理念

文化財、歴史・文化資源は、古代より本町域で暮らしたり、行き交った人々の足跡です。これらを見つめなおし、磨き上げなおすということは、本町に縁のある先人たちの歩み、功績をもういちど再認識することです。それは、町民の皆さん一人ひとり、町全体の「誇り」ということだけでなく、これから

未来に向けての「歩み方」、まちづくりにも関わるものです。文化財ブラッシュアップ、ツーリズム振興事業は、町の過去からの歩みを受け継ぎ、現代、そして未来へと歩いていくための道標づくり、そして、町外の方々が「菊陽町の心」に触れて、その魅力を理解してもらうための道標づくりというコンセプトで進めていきます。

以上をふまえ、本計画においては次のような基本理念を設定しました。

文化財を道標として、過去と未来、  
人と人をつなぐことを目指します



### 3.文化財ツーリズムの将来像

光輝く文化財、歴史・文化資源を軸に、人が行き交い活力を生み出し、心と心が響きあい優しさを生み出す菊陽町になるように、文化財、歴史・文化資源のブラッシュアップ、文化財ツーリズムを進めていきます。

## 水の道、人の道、暮らしの道

---

本町の現在の繁栄には、白川の水の恵が大きく関わっています。

水を治め、水を活かして広い水田を切り拓き、  
豊かな暮らしをつくるために尽力した加藤家や細川家、  
地元の先人たちの歩み、  
白川の水にまつわる有形・無形の文化財が、  
本町および近隣市町村にはたくさんあります。

町の中央を貫く豊後街道も本町の成り立ちを語る上で欠かせないもの、  
古くから様々な人々や物、情報が行き交い  
杉並木や鉄砲小路などをはじめとする景観を今に伝え、  
独自の歴史・暮らし文化を育んできました。  
明治時代には、街道に沿って鉄道が敷かれ新しい文化を運び続けています。

また、集落に残された文化財、歴史・文化資産は、  
古くからの町域で暮らす人々の足跡そのものです。

本町(白川中流域)の成り立ちに大きく関わる白川とその水を引いた井手、  
広がる田園で育まれた農産物の恵みを辿る旅、  
そして古くからたくさんの人々が行き交った街道や、  
それぞれの集落の先人たちの足跡を辿る旅など、  
本町(白川中流域)ならではの古くからの人々の暮らしの息吹を体感できる旅、  
それが菊陽町文化財ツーリズムのコンセプトです。



本計画は、平成27年度を初年度に五カ年で目標を達成することを目指すものです。まず基本計画として平成27年度(2015年度)末に下図のように、将来像の実現を目指すための「文化財ブラッシュアップ、文化財ツーリズムの目標」を定め、3つの施策の「大綱」を定めました。そして計画初年度である平成28年度(2016年度)の前半に、目標・大綱を具現化するための実施計画を策定します。

「基本理念」

文化財を道標として、  
過去と未来、人と人とを結ぶことを  
目指します

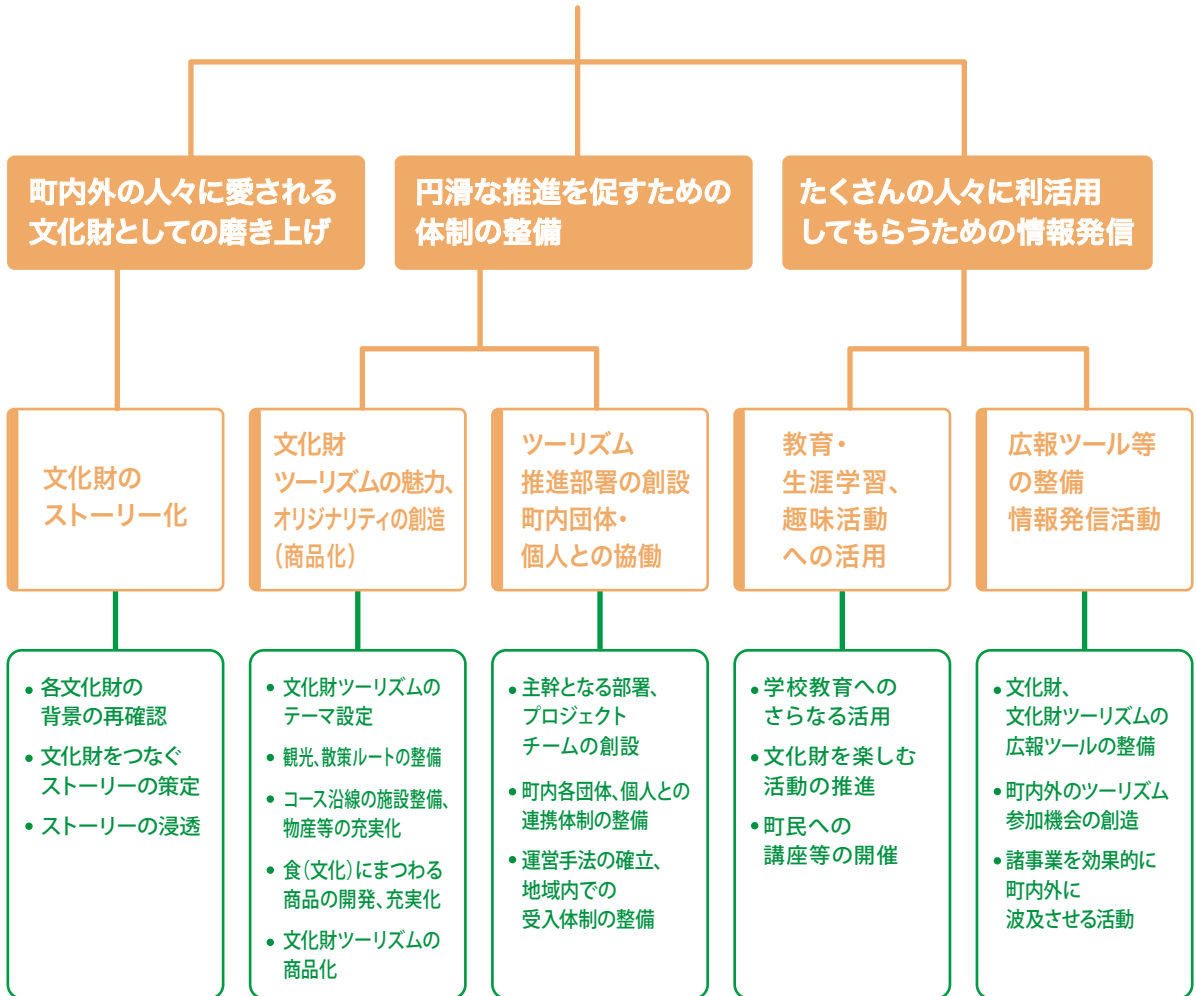
「将来像」

人が行き交い活力を生み、心と心が響きあい優しさを生む

## 水の道、人の道、暮らしの道

を体感してもらうツーリズム

「基本施策」



「事業内容」

「業務項目」

## 2. ツーリズム基本施策の概要

### 町内外の人々に愛される文化財としての磨き上げ

文化財、歴史・文化資源を町内外の皆さんに知ってもらうため、特に町内の皆さんに愛着を感じてもらうために、現存している遺構、目に見えるものを見てもらうだけではなく、その歴史的な背景や人々との関係などを深く掘り下げます。

#### 事業(1) 文化財のストーリー化

文化財、歴史・文化資源が作られた(存在する)理由は何か、そこにどんな人々が関わっていたのか、今日まで残される中で、地域の人々の暮らしにどのような影響を与えたのか、など。現存する各文化財の背景に隠れている文化財と地域の暮らし、風土との関わりなどを「水の道、人の道、暮らしの道」の視点で深く掘り下げてストーリーを明確にします=「小ストーリー化」。そのうえで、本町の文化財・歴史文化資源を俯瞰して、本町の文化財をくくる大きなストーリーを策定します=「大ストーリー化」。それにより、町内外の皆さんに本町の文化財の魅力を端的に理解していただき、共感を引き起こします。

また、ストーリーをより魅力的にするために、例えば「加藤清正公・細川公にまつわる」ストーリー、例えば「白川の水」のストーリー、例えば菊陽の地を治めていた「合志氏にまつわる」ストーリーなど、町域を出て、近隣市町村の資源と結びつけたストーリー化も目指します。

#### 業務項目

##### ・各文化財の背景の再確認

文化財、歴史・文化資源に関わるこれまでの調査、研究結果を改めて紐解くと同時に、町外の識者(旅行・ツーリズム関係者、報道関係者など)の視点も加えて、本町の文化財の背景、ストーリーの素を洗い出します(平成28年3月現在進行中)。

##### ・各文化財をつなぐストーリーの策定

洗い出した結果をもとに、本町(および近隣市町村)の文化財、歴史・文化資源をくくり、結びつけるストーリーを開発します。

##### ・ストーリーの浸透

策定したストーリーをまずは町民の皆さんに浸透させるために、町民の皆さんへの発表会、町広報誌や各メディアを使った広報活動など様々な手法を用います。

## 〈ストーリーの方向性〉

コンセプトである「水の道、人の道、くらしの道」に則って、菊陽町文化財ツーリズムのストーリーの方向性として以下の4つを想定します。

### 「加藤清正公・細川公の里づくり」

勇猛果敢な武将として、城づくりの名人として知られる清正公の、もうひとつの側面である「地域づくり・おこし」に焦点を当て、清正公(熊本藩)とその後を継いだ細川公時代も含めて、殿様と庶民が一体となった新田開発、里づくりのストーリー。歴史・文化遺構や清正公の里づくりの結果生まれた有形・無形の文化財、歴史・文化資源を組み込みます。

### 「生命をはぐくむ水の物語」

町の中央を流れる白川の恵みは、本町の発展、そして熊本県発展の礎。川の源である阿蘇地域から、中流域、そして下流へと、白川を治め、活かし、川とともに生きてきた暮らしの中で生まれた有形・無形の文化財、歴史・文化をつなぐストーリー。

### 「暮らし・文化を運んだ歴史の道」

杉並木で有名な豊後街道では、いろんな人やモノが行き交い多くの物語が生まれています。そして様々な暮らしや文化を生み出しました。大津町に残る宿場町の名残り、街道を守るための地筒の集落(鉄砲小路、花立、八久保)、あるいは頼山陽の碑、西園寺さんの墓など、歴史をつないだ道と、街道沿いに明治時代に敷設された軽便鉄道と豊肥本線も含めて、町を東西に貫く「道」を軸としたストーリー。

### 「風土が育む新旧の食文化の物語」

水に恵まれ土壌がいい本町では、特産品として名高いにんじんをはじめ、農作物は「何でも穫れる」と言われるほど。馬肉を上手に食べる文化も根付いています。これらの食材や食文化を受け継ぎ、馬肉名物料理づくり「うまかロード」が展開されているほか、新しい料理やスイーツが生み出されています。隣接する大津町では江戸時代に街道を歩いた旅人をもてなすための菓子「銅銭糖」が現在も定番の和菓子として残っています。本町と近隣地域の風土と歴史の中で現在進行形で進んでいる「食」をテーマとしたストーリー。

⋮

以上を大きな柱としてストーリーを組み立てます。

ストーリーの詳細は、後に策定する「実施計画書」に記載します。

## 円滑な推進を促すための体制の整備

菊陽町文化財ツーリズムとはどういうものなのか、どんな魅力があるのか、どんな体験ができるのかを明らかにします。同時にツーリズムを実施していくための推進体制の整備、地元地区の受け入れ体制の整備などの実務レベルでの体制も整えていきます。

## 事業(2)文化財ツーリズムの魅力、オリジナリティの創造(商品化)

事業(1)で策定する「ストーリー」は、本町の文化財ツーリズムの特色であり、入込客を呼び寄せ・交流を促進させるテーマ、オリジナリティでもあります。各文化財の「小ストーリー」そして全体を括る「大ストーリー」を基本に、本町文化財ツーリズムがどんなものを表す表現「文言」や「タイトル」の整備、文化財ツーリズム自体の運営ノウハウ等を確立していきます。

### 業務項目

#### ・文化財ツーリズムのテーマ設定

コンセプトである「水の道、人の道、暮らしの道」、そして前述のストーリーを基に、本町の文化財ツーリズムとは何か？という体験が出来るのかを表すテーマやタイトルを策定、それに合わせたツール等の整備を行います。

#### ・観光、散策ルートの整備

テーマを体感してもらうための散策ルート、ツーリズムコースを複数コース設定。それに合わせてサイン、誘導看板、最寄りの交通機関、駐車場、トイレなどの情報を一元化。また地元地区の方々への説明等を行い、地元の方と一体となって観光・散策ルートを整備します。

#### ・コース沿線の施設整備、物産等の充実化

策定した観光・散策コースの沿線、近隣の観光施設、休憩店などの「立ち寄りスポット」との協力体制の確立を行います。また観光客が喜ぶ特産品などの充実化も図っていきます。

#### ・食(文化)にまつわる商品の開発、充実化

馬肉や町内で獲れる野菜等を使った食(料理、スイーツ)を磨き上げ、食・食文化の側面からも観光入込客が立ち寄れるスポットを充実させます。

#### ・文化財ツーリズムの商品化

策定した観光・散策ルート、ツーリズムコース、物産等を合わせて、菊陽町文化財ツーリズムとして商品化。生涯学習や教育旅行(修学旅行)などの誘致も含めて、観光事業者・交通事業者等とも連携を図りながら商品化を行います。

## 〈コースの整備例〉

### 「加藤清正公・細川公の里づくり」

- ・鼻ぐり井手公園 ・馬場楠井手取入口 ・古閑原眼鏡橋 ・鉄砲小路
- ・上井手・塘町筋(大津町) ・御蔵跡(大津町) ・大津手永会所跡(大津町)
- ・光尊寺(大津町) ・年禰神社(大津町) ・苦竹古宮床(大津町) ・大願寺(大津町)
- ・上井手取入口(大津町) ・江藤家住宅(大津町) ・岡本家住宅(大津町) ・さんふれあ など

江戸時代加藤家、その後を次いだ細川家の白川中流域の新田開発、里づくりに関連する歴史文化遺構等に、里のめぐみを体感できる場所として「さんふれあ」などを組み合わせるコース

### 「生命をはぐくむ水の物語」

- ・鼻ぐり井手公園 ・井口眼鏡橋 ・古閑原眼鏡橋 ・入道水眼鏡橋(菊陽杉並木公園)
- ・柳水湧水公園 ・上津久礼眼鏡橋 ・丹防の吐(大津町) ・塘町筋(大津町)
- ・灰塚水道水槽(大津町) 左馬どん供養碑(大津町) ・下井手取入口(大津町)
- ・白川水源(南阿蘇村) ・鮎帰りの滝(南阿蘇村) ・妙見神社の池(南阿蘇村) ・寺坂水源(南阿蘇村) など

白川の水の利活用、そして白川の水の源に関する歴史文化遺構、スポット等を組み合わせるコース

### 「暮らし・文化を運んだ歴史の道」

#### ① 豊後街道を軸としたコース

- ・鉄砲小路集落 ・蘇古鶴神社 ・花立集落 ・杉並木 ・頼山陽記念碑(菊陽杉並木公園)
- ・三里木・四里木 ・西園寺左大臣実晴男随宜之墓 ・五里木跡(大津町) ・清正公道(大津町)
- ・御茶屋跡(大津町) ・人馬所跡(大津町) ・室簀戸口門跡(大津町) など

豊後街道に関する歴史文化遺構、そこを行き交った人や物に関するスポットなどを組み合わせるコース

#### ② 合志氏関連を軸としたコース

- ・今石城跡 ・合志伊賀守隆知の墓碑 ・竹迫城跡(合志市) ・山伏塚(大津町)
- ・玉岡城跡(大津町) 佐々木長綱の墓・今城跡(大津町) ・合志屋敷(大津町) など

中世に本町を治めていた合志氏に関する歴史文化遺構を組み合わせるコース

これらのコースはあくまでも概念的なものです。実際にツーリズムコースとして具現化するためには実際の交通事情や受け入れ態勢などを考慮し、さらに食事や特産品、テーマに関連する体験スポットなども組み入れます。(実施計画所に記載予定)

ツーリズム商品化にあたっては、車で移動のロングコース、徒歩での移動のショートコースなどの観光客のニーズ・実情に合わせたバリエーションを準備することが必要です。

## 事業(3) 推進部署の創設、町内団体・個人との協働

文化財ツーリズムを確立、推進するために文化財の調査・保護の視点に加えて、観光活用、商工振興、まちづくりなどの視点を加えます。また、民間で文化財、歴史・文化資源の保護、利活用に取り組んでいる団体、個人とも連携し「オール菊陽」での推進・運営体制を体系化していきます。

### 業務項目

#### ・主幹となる部署、プロジェクトチームの創設

教育委員会、商工観光、まちづくり、農政など文化財ツーリズム確立・推進に必要な不可欠な役場内部署を横断する新規部署、またはプロジェクトチームを創設します。

#### ・町内外の各団体、個人との連携体制の整備

町の文化財保護委員をはじめ、文化財ボランティアガイドの会、あるいは商工会など、すでに文化財の保護・利活用に積極的に活動している各団体、そして老人会、公民館での活動、あるいは本町内にある企業などとの連携を図り、それぞれの役割、位置づけを明らかにします。また、近隣市町村の文化財と連携、相乗効果を得るために、近隣の自治体、関係団体をも含めた体制を構築します。

#### ・運営手法の確立、地域内での受入体制の整備

文化財ツーリズムを実際に運営していく上では、地元地区の住民の皆さんの協力が欠かせません。先進地の事例等を取り入れながら、運営のノウハウ、手法の確立を図ります。



## たくさんの人々に利活用してもらうための情報発信

菊陽町文化財ツーリズムのテーマ、魅力と、受け入れ・推進体制を整えるのと並行して利用に導くため、そしてブランド価値を高めるための情報発信活動を行います。

### 事業(4) 教育・生涯学習、趣味活動への活用

現在、菊陽南小学校や中部・北部地域の学校で実施している「鼻ぐり井手」を活用した教育を、本町文化財ツーリズム全体に拡大。西部地域の学校、あるいは町外の学校にも活用してもらえる体制をつくります。また、趣味、生涯学習、生きがiguezりの観点からも文化財ツーリズム確立・推進に多くの皆さんに関わってもらいます。

#### 業務項目

##### ・学校教育へのさらなる活用

「鼻ぐり井手」教育をお手本に、策定した文化財ストーリーを教育に活用。町のすべての小学校で取り入れてもらいます。またストーリーで繋がる可能性がある近隣の大津町、熊本市東部地区、南阿蘇村の学校での活用も働きかけます。

##### ・文化財を楽しむ活動の推進

熊本県下で最初にできた総合型スポーツクラブ「スポーツクラブきくよう」の考え方を応用。老若男女が文化財、歴史・文化資源に触れて、楽しむ活動団体「文化財クラブきくよう」(仮)を立ち上げます。

##### ・町民への講座等の開催

上記の文化財を楽しむ活動の推進の一環として、公民館やコミュニティセンターで文化財や文化財ツーリズムの魅力に触れてもらう講座や講習会を定期的で開催します。

## 事業(5) 広報ツール等の整備、情報発信活動

本町ツーリズムのコンセプト＝オリジナリティや、それに紐づく各ストーリー、散策コース・ツーリズムルート等を表す広報ツール等を整備します。あるいは、それらの魅力を実際に体感してもらうための催しやイベントの実施を計画します。

また、総合的に本町ツーリズムの魅力を県内、九州内、全国に発信するための様々な取り組みを行います。

### 業務項目

#### ・文化財、文化財ツーリズムの広報ツールの整備、媒体等の活用

本町文化財ツーリズムのストーリー、特色・オリジナリティを効果的に伝えるためのツール類(ホームページ、動画、パンフレット等)を整備。また、ツールを実際に活用するための具体的な方法も合わせて策定します。

- 全体パンフレット
- ストーリー別パンフレット
- 紹介動画
- ツーリズム全体ホームページ
- 広告出稿
- 番組制作
- など

#### ・町内外のツーリズム参加機会の創造

文化財ツーリズムに参加して実体験してもらうための機会を定期的に準備し、たくさんの町内外の人々に本町の文化財の魅力に触れてもらいます。

##### [ 概要 ]

文化財を訪ねながら、町内の人々とふれあっていただくスタンプラリー、あるいは、文化を菊陽町・白川中流域の特産物や「食文化・暮らし文化」を一堂に集めたフェスティバルなど、「水の道、人の道、暮らしの道」というコンセプトから導きだした「テーマ」、そして「阿蘇くまもと空港」「JR豊肥線」「九州自動車道」などの交通インフラなどもフルに活用して、町内外の人々に参加してもらい、交流を促進させるイベント等を計画・実施します。

#### ・諸事業を効果的に町内外に波及させる活動

本町文化財ツーリズム事業を広く町内外に波及させるために各団体・個人の皆さん一人ひとりに「文化財ツーリズムサポーター」としてもらいます。そして、それぞれの立場での文化財、歴史・文化資源のブラッシュアップ、文化財ツーリズムに関する諸事業への協働への実践を働きかけます。

- 菊陽町文化財ツーリズムサポーターの認定
- など



### 第3章

## ツーリズム振興のタイムスケジュール

平成28年度(2016年度)を準備期間として29年度(2017年度)以降に、ツーリズム事業を展開しながら、並行して体制の整備・充実化を図り、本県で大きな国際大会が開催される30年度(2018年度)、31年度(2019年度)での一定の完成形を目指します。

	文化財のストーリー化	文化財ツーリズムの魅力、オリジナリティの創造	ツーリズム推進部署の創設 町内団体・個人との協働	教育・生涯学習、趣味活動への活用	広報ツール等の整備 情報発信活動
準備・プレ実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>各文化財の背景の再確認</li> <li>文化財をつなぐストーリーの策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財ツーリズムのテーマ設定</li> <li>観光、散策ルートの整備</li> <li>関連する物産等の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育へのさらなる活用</li> <li>文化財を楽しむ活動の推進</li> <li>町民への講座等の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主幹となる部署、プロジェクトチームの創設</li> <li>町内各団体、個人との連携体制の整備</li> <li>運営手法の確立、地域内での受入体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財、文化財ツーリズムの広報ツールの整備</li> <li>町内外からのツーリズム参加機会の創造(イベント実施)</li> <li>諸事業を効果的に町内外に波及させる活動</li> </ul>
2016			↓	↓	↓
2017	<b>磨き上げ完了</b>		<b>体制の整備完了</b>		
2018				↓	↓
2019	<b>計画進捗状況の確認、次の五カ年に向けた計画策定へ</b>				
2020				↓	↓
本格実施					

〈鼻ぐり井手公園交流センター情報発信〉

① 交流センター壁面情報発信

- 壁面パネル造作設置工事 ● 液晶パネル用DVD制作（約5分×5タイプ）

② 鼻ぐり井手交流センター用DVD制作（約15分）

③ 鼻ぐり模型作製

- 1/2スケール（3連・FRP塗装）＊約W3000×H4000×D1200 ● ジオラマ

④ 鼻ぐり井手パンフレット制作

- 日本語版 5,000冊 ● 英語版・韓国語版・中国語版 各1,000冊

⑤ マスコットキャラクター（サウスくん）着ぐるみ作成

- ＊ボア仕上げ、頭部着脱式

〈菊陽町文化財ツーリズム商品造成&情報発信〉

① 文化財ツーリズムの商品造成

② 文化財ツーリズムセールス用印刷物

- A5サイズ×24頁（表紙4頁＋本文20頁）

③ 文化財ツーリズムホームページの立ち上げ

④ 菊陽町文化財ツーリズム告知

- 熊日朝刊＋くまにちすばいす

⑤ ツーリズムルートの企画

- （車、JR&ウォーキング）

⑥ ツーリズムイベント企画・運営

- ＊スタンプラリー形式（通年）又はマラソン大会（年1回）など、開催形式で要検討